

能楽の大家 世阿弥から学ぶこと その②「初心忘るべからず」

前回の「その①」に続き、文化祭の風景から感じた世阿弥の世界観について、雑感をお伝えします
誰もが知っている「初心忘るべからず」は、「初めの志を忘れてはならない」の意味でつかわれますが、世阿弥の意図するところは少しニュアンスが違います。

世阿弥にとっての「初心」とは、新しい事態に直面した時の対処法、すなわち試練を乗り越えるための考え方を示しています。「初心を忘れるな」とは、人生の試練の時にどうやってその試練を乗り越えていったかという経験を忘れるな ということなのです。世阿弥は風姿花伝を始め、度々「初心」について述べています。晩年の60歳を過ぎた頃に書かれた【花鏡】で、3つの「初心」について説いています。

第一：「ぜひ初心忘るべからず」

若いときに失敗や苦勞した結果、身に付けた芸は、常に忘れてはならない。それは後々の成功の糧となる。若いころの初心を忘れては、能を上達していく過程を自然に身に付けることができず、先々上達することは到底無理である。だから生涯、初心をわすれてはならない。

第二：「時々の初心忘るべからず」

歳とともにその時々積み重ねていくものを、「時々の初心」という。若いころから最盛期を経て、老年に達するまでその時々合った演じ方をすることが大切。どの時々の演技をその場限りで忘れては、次に演ずる時に、身についたものが何も残らない。過去に演じた1つ1つの風体を、全部みにつけておけば、年月を経てすべてに味がでるものだ。

第三：「老後の初心忘るべからず」

老齢期には老齢期にあった芸風を身に付けることが「老後の初心」。年をとったからもういい ということではなく、その都度、初めて習うことを乗り越えなくてはならない。 参考文献 the 能・com

このように、それまで経験したことがないことに対して、自分の未熟さを受け入れながらその新しい事態に挑戦していく心構え、その姿を説いています。その姿を忘れなければ中年になっても、老年になっても、新しい試練に向かうことができる。失敗を身に付けよ ということなのです。

世阿弥は、今のコロナの時代を想定していたでしょうか？

皆さんの文化祭に向かった姿勢、世阿弥に言わせれば、未経験のことに踏み込んでいく それは「不安」と「恐れ」ではなく、人生へのチャレンジ ということです。

いよいよ7月。3年生は大切な進路決定に向け自分が超える壁にこの経験をもって立ち向かっていきましょう。

続「文化祭の風景」 最高の文化祭、お疲れ様でした！！



- ・模擬授業「落語愛」「映画愛」 本当に素晴らしかった！皆さんの「〇〇愛」またぜひ、聴かせてください。
- ・ダンパの傍ら、裏方部隊も踊る踊る！ 陰で支えるスタッフがいるからの成功を、忘れないようにしたいですね。